この町で、この地で笑って老いたい　～そのために今すべきこと～

大草山だより

錦着て帰る故郷の若葉かな

内藤岩雄

山上まちづくりの会（広報部・事務局）電話 82-0933

令和６年２月号

地域の方々からのご要望で、本誌を保管しやすいように A4見開き4ページに編集しました。

高橋（たかはし） 秀紀（ひでのり）さん（茶屋） 優秀金賞受賞！

第１７回あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト in 庄内町

高橋秀紀さん（茶屋）が令和5年11月25日に山形県庄内町余目第四まちづくりセンターで開催された「第17回あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト in 庄内町」決勝大会のメジャー部門にて最優秀金賞に次ぐ優秀金賞を受賞されました。

同コンテストは米の作付面積、品種などから3つの部門に分けられ、10月24日から11月6日まで予選審査がありました。審査方法は予選から決勝まで、機械による判定ではなく、実際にお米を炊いて食し「外観」「香り」「味」「粘り」「硬さ」で評価されました。

11月15日に予選の結果発表があり、全国から応募された出品総数500点(うちメジャー部門220点)の中から決勝大会にはメジャー部門12点、プレミアム部門12点、高校生部門6点が進みました。メジャー部門とは、令和3年産うるち米の品種別作付割合上位20品種が対象となります。高橋さんはコシヒカリを出品されました。（プレミアム部門はメジャー部門以外の品種が対象）

優秀金賞を受賞された高橋秀紀さん。
（農事組合法人 エコファームHOSOYA）

メジャー部門受賞者のみなさん。
中央：山形県庄内町長（実行委員長） 富樫 透さん
左から2人目 ： 優秀金賞 高橋 秀紀さん【鳥取県】
右から3人目 ： 最優秀金賞 中山 北斗さん【熊本県】

資料提供：山形県庄内町　文責：山上まちづくりの会事務局

●「酷暑の中、米づくりが大変だったと思いますが今年は西日本の米が健闘し、中でも出品数の少なかった鳥取県のお米が2つも決勝に残ったのは特筆すべきことです。」と庄内町長が決勝トーナメント前に挨拶されました。

●決勝大会の様子はYouTubeで「庄内町米コンテスト 17回」と検索するとご覧になれます。

豆知識【山形県庄内町】

コンテストが開催された山形県庄内町は、「つや姫」や「はえぬき」「雪若丸」「コシヒカリ」などおいしい米のルーツである「亀ノ尾（かめのお）」「森多早生（もりたわせ）」発祥の地です。

新年の球技大会のようす ～厚生体育部～

ソフトテニス大会 チーム山上

日南町インドアソフトテニス大会 １月２１日

令和5年度日南町インドアソフトテニス大会が日南町体育館で1月21日に開催されました。冬期間の体力づくり、支部体育協会の交流と競技人口の拡大を図ることをねらいに開催され、1チーム3ペアのリーグ戦で地区対抗形式で行われました。山上からも6人が参加し、第2位になりました。

一打入魂

男子1位 吉川春樹さん（中央）
女子2位 山崎良美さん（左から1人目）

日南町卓球大会 １月２８日

令和5年度日南町卓球大会が日南町体育館で1月28日に開催されました。山上は団体2位でした。男子個人1位優勝に吉川春樹さん、女子個人2位に山崎良美さんが輝かれました。おめでとうございます！

みんなで作るから楽しい

～住民学習部～

お正月を彩るしめ飾り作り １２月１７日

お正月を前の12月17日、山上地域振興センターで「しめ飾り作り」が行われ、総勢17名の方が参加しました。講師には南部町の Piro's Garden（ピロズガーデン）さんをおむかえし、丁寧に教えてもらいました。

～参加された皆さんの感想～

☆ 材料がたくさんあり、ちょっと苦戦したところもありましたが仕上がってうれしかったです。参加の皆さんも満足された様子でしたね。

☆ 楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

☆ 初めてのお正月飾り作りでしたが、皆さんと和やかに作れて良かったです。仕上がりもとても綺麗に出来て良かったです。家に飾って華やかになりました。

素敵なしめ飾りができあがりました！

特集 “山上教育の父” 内藤岩雄 生誕１５０年

内藤岩雄は、一八七四年(明治七年)二月二十二日、日野郡矢原村(現日南町茶屋)の神職の家に生まれます。鳥取師範学校を卒業後、日野高等小学校の教員となり、一九〇一年(明治三十四年)、二十八歳の若さで新設された山上尋常高等小学校の校長に迎えられます。

「開塾は教育なり」という教育方針を掲げ、教職員と生徒たちを中心とした校庭の拡張や造林に取り組むとともに、自宅の敷地内には「松藤村塾」を開き、遠方から通う子どもたちの寝起きの世話をしながら通学を支え、校地内には「松蔭舎」と名付けた塾を開くなど、公私、昼夜を厭わず、全力で学校教育に力を注いだ独特な学校経営は、当時の教育界で高く評価され、一九一一年(明治四十四年)、鳥取県から教育功労者として表彰されました。(右の写真はこの当時のものです。)

また、青年団、処女会、幼年会などの組織づくりをはじめとして、社会教育にも力を尽くし、山上教育の父とうたわれます。一九一五年(大正四年)、山上のシンボル大草山に『大正』のひのきの造林をし、これは一〇〇年以上経過した今も残っています。

一九二五年(大正十四年)、五十一歳で退職した後は、日野郡史編集委員の中心となって上下巻四〇〇〇頁に及ぶ〈日野郡史〉を完成させます。また、一九三九年(昭和十四年)、六十六歳になってから『雲伯古代史』についての研究を深めるため、京都大学に入学します。文学部長西田直二郎博士のもとで研究に没頭し、病気のためやむなく中断することとなるまで、向学心に燃えた岩雄の勤勉な姿は、多くの人々の尊敬を集めたのです。

その他にも、「石霊渓」の名勝地指定運動を起こしたり、「天の叢雲の剣」発祥の地といわれる「鳥髪の峰(船通山)」の神域宣揚に努めたりなど、郷土に残した功績は枚挙にいとまがありません。岩雄は、博学、多趣味で、史学、文学に詳しく、俳句、和歌、書、絵も巧みでした。その中でも独特な作風で描いた『奔馬』の絵は現在でも多く残されています。また、一九四〇年(昭和十五年)、皇紀二千六百年を記念して描いた「奔馬二千六百之図」や「二千六百之梅」は、その代表作としても知られています。

一九四四年(昭和十九年) 九月三日、七十一歳でその生涯を終えた岩雄は、村葬で盛大に送られました。

今年、内藤岩雄の生誕一五〇年を迎えます。この特集を終わるにあたり、内藤岩雄が一九一四年 (大正三年) に教育者としての覚悟を詠んだうたを掲載します。感謝。

『願わくは教の道に吾死なん
飢えて凍えて野にたおるとも』

参考文献：日南町美術館平成二十六年度内藤岩雄展パンフレット

文　責：山上まちづくりの会事務局

山上村巡りの歌

作　内藤岩雄

一、赤松立てる丘こさば 磯辺に貝や拾われんと
ばかり見ゆる高原の吾故郷の眺めかな

二、来る人毎にほむるなり　山又山の奥にかく
広き所のあるべしと思わぬ人の多かれば

三、千年の昔知り顔に立ちし大木の名におえる
大松峠のいただきに我が学園は立てるなり

四、一際高き校庭は 四季折々のたえまなく
花咲きめぐり鳥鳴きて奥ゆかしくぞ思わるる

五、今日は小春の空晴れて　我等を包む紅葉の
色も一入見栄えありいざや村内巡り来ん

六、学校出でて坂道を南に下ればさしてゆく
笠木の村に出ずるなり日谷神社に詣でなん

七、我が友達は 朝な朝通り道路もうるわしく
多里宮内に続きたり車のわだちに行きかいて

八、川辺にそいて川下に 下ればここは福万来よ
分教場も防いて見ん長楽寺にも詣でなん

九、阿毘縁に通う県道を 下ればここは郷尾滝
岩間に生ふる岸つつじ生山駅も遠からず

十、峠をこえて名もゆかし 佐木谷村にわけ入れば
細屋川の音さやに塵にけがれぬ境なり

十一、佐木谷川をさかのぼり 福寿実村に来て見れば
大宮に行く道はよし御代の光にもれぬかな

十二、小さき峠をうちこえて 出ればここは茶屋村よ
大倉二子遠山も松の葉かげに見ゆるなり

十三、ひときわ高き常桂寺 寺の庭よりながむれば
右に鎮守の森見えて松の木かげに立てるなり

十四、山はしばらく登りたる 大草山よ低けれど
富士にも似たる姿かな藤と雪とは殊によし

十五、大草山の裾こえて 船通山にのぼるべしここは
神代の霊地なり竜頭が滝も見てゆかん

十六、千町の小田は黄金なす 稲の穂波のうちつづき
山は栗、檜、桧、杉、夕日に映えてうるわしや

十七、神代の昔 すさのうの神の時より真金吹く
業につれてや開けけむ今も鋼に名を得たり

十八、眺めも広く土地もよし 人の心もすなおにて
よそに劣らぬ富もあり教えの道にいざいそげ

昭和６年(１９３１年)　岩雄５７歳の時、
門弟によって胸像が山上校庭に建つ。(除幕式写真)

【お願い】山上村巡りの歌が、どこに立ち、どちらの方向を見ながら詠んだものか。また、出発から最後に船通山に登り俯瞰するまでどういうルートを歩いたものか、わかる方がいましたら教えてください。　山上まちづくりの会 事務局